

新しいエルサレムの特徴（後半）〔要約〕

黙示録 22 : 1 ~ 5

- 1 御使いはまた、私に水晶のように光るいのちの水の川を見せた。それは神と小羊との御座から出て、
- 2 都の大通りの中央を流れていた。川の両岸には、いのちの木があって、十二種の実がなり、毎月、実ができた。また、その木の葉は諸国の民をいやした。
- 3 もはや、のろわれるものは何もない。神と小羊との御座が都の中にあって、そのしもべたちは神に仕え、
- 4 神の御顔を仰ぎ見る。また、彼らの額には神の名がついている。
- 5 もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、彼らにはともしびの光も太陽の光もいらない。彼らは永遠に王である。

(8) 命の水の川

黙示録 22:1 御使いはまた、私に水晶のように光るいのちの水の川を見せた。それは神と小羊との御座から出て、
黙示録 22:2 都の大通りの中央を流れていた。川の両岸には、いのちの木があって、十二種の実がなり、毎月、実ができた。また、その木の葉は諸国の民をいやした。
水晶のように光る命の川が流れている。都の大通りの中央を流れている。
「12種の実」＝「みかん」「リンゴ」「柿」「桃」「ナシ」・・・実が出来た。おいしいですね。
その木の葉は諸国の民を癒し、病気はないので心に平安を与えた。

日本では、心の病で自殺する人が年間3万人もいます。
心に病を持っている人にとって、天国は平安を与えるところです。感謝です。

エゼキエル書 47:1 彼は私を神殿の入口に連れ戻した。見ると、水が神殿の敷居の下から東のほうへと流れ出ていた。神殿が東に向いていたからである。その水は祭壇の南、宮の右側の下から流れていた。
神殿の敷居の下から流れている。

ゼカリヤ書 14:8 その日には、エルサレムから湧き水が流れ出て、その半分は東の海に、他の半分は西の海に流れ、夏にも冬にも、それは流れる。
エルサレムから湧き出す川・・・「東の海」＝「死海」「西の海」＝「地中海」
神と小羊・・・「小羊」＝「キリスト」

(9) 命の木

創世記 2:9 神である主は、その土地から、見るからに好ましく食べるのに良いすべての木を生えさせた。園の中央には、いのちの木、それから善悪の知識の木とを生えさせた。
アダムが罪を犯した結果

創世記 3:22 神である主は仰せられた。「見よ。人はわれわれのひとりようになり、善悪を知るようになった。今、彼が、手を伸ばし、いのちの木からも取って食べ、永遠に生きないように。」
創世記 3:23 そこで神である主は、人をエデンの園から追い出されたので、人は自分がそこから取り出された土を耕すようになった。

黙示録 22:3 もはや、のろわれるものは何もない。神と小羊との御座が都の中にあって、そのしもべたちは神に仕え、
「僕たち」＝「福音を信じた人たち」
「神に仕え」＝「神を礼拝し」
「神と小羊」・・・三位一体

Ⅱコリント 13:13 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。
「聖霊の交わり」＝「聖霊が信徒に交わりを与えてくださる」

黙示録 22:4 神の御顔を仰ぎ見る。また、彼らの額には神の名がついている。
額には神の名がついている。神様の所有となった。

ヨハネ 1:12 しかし、この方（キリスト）を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。
今、キリストを受け入れた人々の額に神様の名前が書き記されて居たらなんと素晴らしいことでしょう。

(11) 夜が巡ってこない都

黙示録 22:5 もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、彼らにはともしびの光も太陽の光もいらない。彼らは永遠に王である。
夜がない。栄光の体に変えられているので眠る必要がない。
「王」＝「統治する」

結論
天国は素晴らしいと思いませんか、一人でも多くの人に伝道したいと思います、先週、私は骨の話をしました。神様の言葉に従えば神様が働いてくださいます。私は今までとても従えなかった御言葉に従うと神様が働いてくださいました。私は驚いています。それから家内に「どうしたらもっと伝道できると思う？」と話したら、家内は「クリスチャンにもっと喜びがあったら伝道することが出来る。」と言うのです。私もそう思いました。

ガラテヤ 5:22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、御霊に満たされなければ、心から喜ぶことはできません。

エペソ 5:18 また、酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。御霊に満たされるということは、ガソリンスタンドでガソリンを満タンにさせていただくことではありません。聖霊は神様です。

IIコリント 13:13 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。

クリスチャンは、毎日曜日、頌栄で、聖霊の交わりを唱えています。しかし、考えてみると神様と交わるなんて畏れ多いことです。

私は、例えば山宮先生と交わる時、緊張します。まして神様と交わるなんて考えただけで、こわくなります。私達は運転しているとき、パトカーを見ただけで緊張します。それが神様と交わるのです。しかしイエス様は聖霊さまのことを「助け主」といつてくださるのです。

ヨハネ 14:16 わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。私達は毎日、聖霊なる神様と交わっているのでしょうか。

Iコリント 3:16 あなたがたは神の神殿であり、神の御霊があなたがたに宿っておられることを知らないのですか。神の御霊があなたがたに宿っておられることを知らないのですか。

これはクリスチャンには神の聖霊が宿っています。しかし、自分のうちに神の聖霊が宿っていることを忘れているということです。神の聖霊が宿っていることを忘れていて、交わっていると言えるのでしょうか。聖霊様は目に見えないので、意識しなければ交わることはできません。私たちは大事なお客さんをお泊めしたとき、子どもたちに静かにしていなさいというでしょう。これはお客さんを意識しているということです。私たちは人間同士交わる時、何を用いて交わりますか。それは言葉です。犬を散歩に連れて行くとき、犬は言葉がしゃべれないのでしっぽを振ります。これは嬉しいと言っているのです。犬とでも交わりが出来るので、私達は、心で聖霊さまに語りかけることが出来ます。聖霊様、感謝します。

次にエペソ 5:18 では、「御霊に満たされなさい」の前に「酒によってははいけません。」とあります。酔うということは、お酒の影響を受けるといことです。これは「御霊に満たされなさい」とは聖霊の影響を受けなさいということです。ある人から影響を受けるといことは、その人とよく交わらなければその人から影響を受けることはできません。

ヨハネ 14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。「聖霊様、この事はどうしたらいいのでしょうか？」といつも聞いている人は、聖霊さまの影響を受けている人です。いつも、自分の考えでやっている人は、聖霊様の影響を受けていません。

「聖霊様どうしたらよいかわかりません、聖霊様、私を導いてください」と祈ればよいのです。それが難しい人は、「聖霊様、聖霊様」と呼びかけるだけでも良いのです。赤ちゃんは、言葉はしゃべれないけど、いつもお母さんのことを意識しています。お母さんのことを考えていると幸せなのです。私達も赤ちゃんのように、聖霊様のことを考えていると幸せになれます。